

2016年世界の医薬品メーカーランキング

2016年世界の大型医薬品売上高ランキング

研ファーマ・ブレーンは20年にわたってまとめている「2016年世界の医薬品メーカーランキング」及び世界の大型医薬品をまとめた「2016年世界の大型医薬品売上高ランキング」を公表した。これは各社が公表している決算の詳細に基づいて作成しており、メーカーランキングは医療用医薬品とワクチンの売上で、大型医薬品ランキングは「創薬したメーカーのオリジナルの製品が世界でいくらの売上となったか」を各社の売上合計からまとめたもの。今回は比較する意味で5年前の2011年のランキングも掲載した。

■2016年世界の医薬品売上高ランキング（メーカーランキング）

このランキングは各社の決算発表資料や年次報告書等から医療用医薬品、ワクチン、ロイヤルティ等の売上げをまとめており、大衆薬（OTC）や動物薬、検査薬などを除外したもの。ただし、詳細非公表のメーカーは全売上高（表では38位のイタリア最大手のメナリーニ）。為替レートは年平均レートで、1ユーロは前年比▲0.4%の1.1056ドルでありあまり変わらないが、円は10.7%上昇して100円0.9188ドル（1ドル108.84円）となった。日本のメーカーは円で▲9.7%以上の減収でなければドル換算値は増えている。

次のメーカーランキングの表では、世界の上位40社と20億ドル以上の日本のメーカーを示した。世界の大手を中心にいくつかのポイントをまとめると次の通り。

- 世界で100億ドル以上の医薬品メーカーは2015年の21社から2016年は24社へ増加。
- 1位ファイザー、2位ノバルティス、3位ロシュは2015年と同じ。
- 1位のファイザーは注射剤を中心としたジェネリックの大手ホスピーラの買収や前立腺がん薬イクスタンジを創製したメディベーションの買収により、8.3%増の482.59億ドルとなったが、過去最大だった2010年の585.23億ドルからは102億ドル以上減らしており、まだリピトール等のパテントクリフをカバーできていない。
- 2位ノバルティスは米国で16年2月にグリベックのジェネリックが登場した影響が大きく、▲1.6%の427.06億ドルとなった。ノバルティスは2016年からアルコンの眼科薬を革新的医薬品事業（ブランド品）とサンド（ジェネリック）に移している。
- 3位ロシュは4.0%伸ばしたが、決算のスイスフランが▲2.6%と下落した影響でドルでは5億ドルあまり増やただけで416.26億ドル。
- メルクは免疫腫瘍薬キイトルーダやワクチン事業を伸ばして1.1%増の351.51億ドルで4位に上昇し、サノフィはワクチンや子会社ジェンザイムの製品を伸ばしたがプラビックスなどパテント切れの従来品の減少でトータルでは0.0%の横ばいで346.92億ドルとなり、メルクに抜かれて5位となった。
- 2015年には6位へ躍り出たギリアド・サイエンシズはC型肝炎薬市場の縮小で▲6.9%の303.90億ドルで7位となる一方、ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）はステララやシンポニー、ザレルト（米国のみ）が好調で20億ドルあまり増えて346.92億ドルで6位となり、ギリアドと順位が入れ替わった。
- 8位のグラクソ・スミスクラインはポンドが▲11.2%と2ケタ下落した影響で決算のポンドでは16.2%も伸びたが、ドルでは3.2%増の286.29億ドル。この伸びは塩野義製薬が創製した抗HIV薬のテビケイとその配合剤トリーメクが大きく貢献した。

2016年医薬品売上高ランキング

百万ドル

16順	15順	メーカー名	国	2016年	前期比	R&D費	2015年
1	1	ファイザー	米	48,259	8.3%	7,872	44,547
2	2	ノバルティス	スイス	42,706	-1.6%	8,523	43,415
3	3	ロシュ	スイス	41,626	4.0%	10,299	41,071
4	5	メルク	米	35,151	1.1%	7,194	34,782
5	4	サノフィ	仏	34,692	0.0%	5,718	34,804
6	7	ジョンソン&ジョンソン	米	33,464	6.5%	6,967	31,430
7	6	ギリアド・サイエンシズ	米	30,390	-6.9%	5,098	32,639
8	8	グラクソ・スミスクライン	英	28,629	16.2%	3,852	27,754
9	10	アッヴィ	米	25,638	12.2%	4,366	22,859
10	9	アストラゼネカ	英	23,002	-6.9%	5,890	24,708
11	11	アムジェン	米	22,991	6.1%	3,840	21,662
12	14	ブリistol・マイヤーズスクイブ	米	19,427	17.3%	4,940	16,560
13	12	テバ製薬工業	イスラエル	19,303	7.9%	2,111	17,884
14	16	バイエル	独	18,154	14.4%	3,081	15,925
15	13	イーライ・リリー	米	18,064	7.7%	5,244	16,778
16	15	ノボ・ノルディスク	デンマーク	16,611	3.6%	2,164	16,049
17	17	武田薬品工業 1703	日	14,415	-4.8%	2,869	13,681
18	18	ベーリンガー・インゲルハイム	独	14,165	7.5%	3,441	13,227
19	20	アラガン	アイルランド	13,239	19.5%	2,576	11,080
20	19	アステラス製薬 1703	日	12,052	-4.4%	1,912	11,391
21	21	バイオジェン	米	11,449	6.4%	1,973	10,764
22	28	シャイアー	アイルランド	11,397	78.1%	1,440	6,400
23	23	セルジーン	米	11,229	21.3%	4,470	9,256
24	22	マイラン	オランダ	11,077	17.5%	827	9,429
25	25	第一三共 1703	日	8,163	-4.8%	1,969	7,742
26	24	大塚ホールディングス	日	6,919	-27.4%	1,551	8,612
27	30	CSL(CSLベーリング)1612	オーストラリア	6,655	18.6%	614	5,611
28	27	メルクKGaA ヘルスケア	独	6,628	-0.6%	1,654	6,689
29	26	ヴァレアント製薬Int'l	カナダ	6,437	-12.2%	421	7,328
30	37	リジェネロン製薬	米	4,860	18.4%	2,052	4,104
31	35	エーザイ 1703	日	4,696	-0.5%	1,310	4,263
32	34	UCB	ベルギー	4,619	7.8%	1,128	4,300
33	31	フレゼニウス・カービ	独	4,541	3.0%	390	4,426
34	32	サン製薬工業 1703	インド	4,540	8.5%	347	4,351
35	36	中外製薬	日	4,519	-1.4%	781	4,139
36	33	セルヴィエ (概数公表値)	仏	4,422	2.6%	1,061	4,327
37	43	エンドー・インターナショナル	アイルランド	4,010	22.7%	183	3,269
38	39	メナリーニ	伊	3,899	6.0%	不明	3,690
39	40	田辺三菱製薬 1703	日	3,864	-1.7%	594	3,551
40	38	アボット・ラボラトリーズ (GE)	米	3,859	3.7%	1,422	3,720
42	44	大日本住友製薬 1703	日	3,381	1.9%	742	2,996
45	46	塩野義製薬 1703	日	2,894	4.3%	458	2,507
48	50	協和発酵キリン	日	2,412	-6.0%	464	2,317
53	68	小野薬品工業 1703	日	2,249	52.7%	528	1,330
100億ドル以上メーカー小計				557,129	10.8%	106,668	503,010

研ファーマ・ブレイン 永江研太郎の調査による

© K.Nagae/KEN Pharma Brain

新ファルマ・フューチャー2017年6-7月号No.7より抜粋

※医療用医薬品、ワクチン、ロイヤルティ等売上高で、大衆薬(OTC)や動物薬、検査薬は除外

※世界の上位40社と20億ドル以上の日本のメーカーを示した

※ドル換算値は年平均レート(16年のユーロは前年比▲0.4%の1.1056ドル、100円は+10.7%の0.9188ドル)

※メーカー名の後ろに1703とあるのは3月期決算、他は12月期決算(27位CSLは6月期決算を1~12月で集計)

※100億ドル以上メーカー小計は2016年は24社、2015年は100億ドル以上の21社の小計

- 9位の**アッヴィ**はトップ製品のヒュミラを伸ばしたほか、2015年3月に買収したファーマサイクリクスの白血病薬イムブルビカがフルに貢献して12.2%増の256.38億ドルでアストラゼネカを抜いた。
- **アストラゼネカ**は米国でスタチンのクレストールのジェネリック登場が大きく、欧米のネキシウムの減収も続いており、▲6.9%の230.02億ドルで10位となった。過去最大だった2011年の329.81億ドルからほぼ100億ドルを失っている。
- 11位**アムジェン**の順位は変わらず、**ブリストル・マイヤーズスクイブ**が免疫腫瘍薬**オプジーボ**を急増させて順位を2つ上げて14位となった。13位の**テバ製薬工業** (Teva Pharmaceutical Industriesの和訳) は8月終わりに**アクタビス**を買収したが、伸びは7.9%増にとどまり、193.03億ドルで順位を1つ落とした。
- ドイツの**バイエル**は抗凝固剤**ザレルト** (イグザレルト) や**リジェネロン製薬** (30位) から導入した**アイリーア** (米国以外) が好調で、大きなパテント切れもなく14.4%増の181.54億ドルで14位。米国の**イーライ・リリー**は7.7%伸ばしたものの、ブリストル・マイヤーズスクイブやバイエルに抜かれて15位の180.64億ドル。イーライ・リリーもピーク時2011年の226.08億ドルから45億ドル以上減らしている。
- 日本のメーカーでは、**武田薬品工業**、**アステラス製薬**、**第一三共**とも4%台の減収だが、円高でドル換算値は増え、アステラスが**アラガン**に抜かれて1つ順位を落としただけで、武田薬品、第一三共とも順位は変わらず。第一三共は米国でパテントが切れた**ARB**の**ベニカー** (オルメテック) のジェネリックが順調に流通せず、しばらくはブランド品や**AG** (オーソライズドジェネリック) が強かったために減収幅を抑えられた。現在はジェネリックが増えている。
- **ベーリンガー・インゲルハイム**は米国のジェネリック子会社や低分子の受託製造子会社を売却し、トップ製品の**スピリーバ**も2ケタ減少したが、**プラダキサ** (プラザキサ) や特発性肺線維症の**オフエブ**などを伸ばし、7.5%増の141.65億ドルで18位。
- **アラガン**は19.5%増の132.39億ドルでアステラスを抜き、**バイオジェン**は日本でも発売した**テクフィデラ**などを伸ばしたが6.4%増の114.49億ドルで順位21位は変わらず。なお、バイオジェンは血友病薬**イロクテイト**や**オルプロリクス**を切り離し、**バイオベラティブ**として今年2月に分離出場させたため、2017年の売上げはその分(2016年売上げは合わせて8.5億ドル) が減る。
- 22位の**シャイアー**は血液製剤大手の**バクスアルタ**を買収して78.1%増の113.97億ドルで、順位を6つ上げた。
- 23位の**セルジーン**はトップ製品の**レブリミド** (レブラミド) や**ポマリスト**などの多発性骨髄腫薬が米国の値上げを含めて好調で、21.3%増の112.29億ドルと伸びたが順位は同じ。
- オランダ本社の**マイラン**は17.5%と2ケタ伸ばして110.77億ドルとなったが、シャイアーとセルジーンに抜かれて順位は2つ下落して24位。
- 上位24社が100億ドル以上となったが25位の第一三共は81.63億ドルで、90億ドル台、100億ドル台のメーカーがない。マイランと第一三共は29.1億ドルも開いており、26位の**大塚ホールディングス**は69.19億ドルで70億ドル台のメーカーもない。そのため2016年に25位以下のメーカーが100億ドル以上になることは当面ないだろう。
- 血液製剤の大手で27位のオーストラリアの**CSL** (CSLベーリング) はほかに**メルク**

のガーダシルの製造特許の1つを持つなどワクチン事業もあり、2015年にノバルティスのインフルエンザワクチンを買収している。オーストラリアの企業は6月期決算が多くCSLもそうだが、1～12月で計算した数字を用いた。

次に、比較する意味で2016年の5年前の「2011年の50億ドル以上のメーカーランキング」を示した。次の表でまとめた数字は2016年と同じ基準で集計したもの。

2011年医薬品売上高ランキング

百万ドル

11順	10順	メーカー名	国	2011年	前期比	R&D費
1	1	ファイザー	米	57,747	-1.3%	9,112
2	2	ノバルティス	スイス	47,925	14.1%	9,583
3	3	メルク	米	41,289	3.7%	8,467
4	4	サノフィ	フランス	40,607	5.2%	6,041
5	5	ロシュ	スイス	36,439	-7.6%	7,632
6	6	グラクソ・スミスクライン	英	34,293	-5.1%	6,045
7	7	アストラゼネカ	英	32,981	1.4%	5,523
8	8	ジョンソン&ジョンソン	米	24,368	8.8%	5,138
9	9	イーライ・リリー	米	22,608	4.3%	5,021
10	10	アボット・ラボラトリーズ	米	22,435	12.8%	4,129
11	11	プリストル・マイアーズ スカイプ	米	21,244	9.0%	3,839
12	13	武田薬品工業 1203	日	17,556	7.2%	3,642
13	12	テバ製薬工業	イスラエル	16,689	3.5%	1,095
14	14	アムジェン	米	15,582	3.5%	3,116
15	16	ベーリンガー・インゲルハイム	ドイツ	13,976	4.4%	3,072
16	15	バイエル・ヘルスケア	ドイツ	13,774	-0.3%	2,015
17	17	アステラス製薬 1203	日	12,523	1.6%	2,452
18	19	ノボ・ノルディスク	デンマーク	11,557	9.2%	1,677
19	18	第一三共 1203	日	11,535	-3.2%	2,391
20	21	大塚ホールディングス 1203	日	10,106	4.1%	2,057
21	22	ギリアド・サイエンズ	米	8,385	5.5%	1,229
22	20	エーザイ 1203	日	8,014	-16.4%	1,616
23	24	バクスター・インク・ナショナル	米	8,014	6.4%	946
24	23	メルク・セローノ	ドイツ	7,666	2.9%	1,580
25	25	マイラン	米	6,106	13.0%	295
26	26	田辺三菱製薬 1203	日	5,066	-0.7%	907
27	28	バイオジェン・アイテック	米	5,049	7.1%	1,220

研ファーマ・ブレーション 永江研太郎の調査による

2011年に5位のロシュは2016年の売上げのほうが多いが、150億ドル以上の上位14社で見ると、2016年のほうが多いのはロシュ以外では8位のジョンソン&ジョンソン、10位のアボット・ラボラトリーズ（現在のブランド品はアッヴィで、アボットは新興国のジェネリックのみ）、13位のテバ製薬工業、14位のアムジェンの5社だけだった。つまり、低分子薬中心の世界的大手は2011年、2012年の過去最大のパテントクリフを5年経ってもカバーできていない。

■研究開発費（R&D費）ランキング

次の表では研究開発費に50億ドル以上を投じた9社について、2011年の数字と比較した。2016年の研究開発費はロシュがほぼ103億ドルでトップとなり、医薬品売上高（及びロイヤルティ）の24.7%を投じている。イーライ・リリーは29.0%の52.44億ド

研究開発費の変化 16年対11年

単位：百万ドル

16順	メーカー名	16R&D費	比率	5年伸び率	11R&D費	比率
1	ロシュ	10,299	24.7%	34.9%	7,632	20.9%
2	ノバルティス	8,523	20.0%	-11.1%	9,583	20.0%
3	ファイザー	7,872	16.3%	-13.6%	9,112	15.8%
4	メルク	7,194	20.5%	-15.0%	8,467	20.5%
5	ジョンソン&ジョンソン	6,967	20.8%	35.6%	5,138	21.1%
6	アストラゼネカ	5,890	25.6%	6.6%	5,523	16.7%
7	サノフィ	5,718	16.5%	-5.3%	6,041	14.9%
8	イーライ・リリー	5,244	29.0%	4.4%	5,021	22.2%
9	ギリアド・サイエンズ	5,098	16.8%	314.8%	1,229	14.7%

研ファーマ・ブレン 永江研太郎の調査による/比率は医薬品売上高に対する比率

ルを投じており、かつての主力品であるジプレキサやサインバルタの減収をカバーするべくバイオに力を入れ、抗がん剤のサイラムザや尋常性乾癬のトルツなどを発売しているが、まだ過去のピーク時に戻っていない。

R&D比率は低分子薬中心の世界的大手ではかつて16~17%が適正とも言われたが、ブランドメーカーが新薬を出せなければ売上げは減少する一方なので20%を超えるのが普通となっている。2016年にR&D費が10億ドルを超えたメーカーの平均R&D比率はジェネリック最大手のテバ製薬工業を含めて21.4%に達している。

世界最大手のファイザーは開発の人員を大幅に減らし、世界の大手CROへの開発委託を中心とすることでR&D比率を16.3%と上の表の上位9社では最も少なくしているほか、開発期間を短縮して自社では創薬や研究センターとしている。

■2016年世界の大型医薬品売上高ランキング

次頁で示したのは2016年の世界の大型医薬品売上高ランキングである。ここでは世界で30億ドル以上の上位33製品の売上高を示した。

この大型医薬品ランキングは、メーカー各社が公表している医薬品の売上げに基づき、創製したメーカーの売上げとロイヤルティ、それをライセンスしたメーカーの売上げを合計することにより、「オリジナルのメーカーが創製した医薬品が世界でどれだけの売上げを創り出したのか」という世界売上げを過去15年以上にわたってまとめているもの。ドル換算値は2016年の年平均レートで、表で製品名にアミを掛けたものはバイオ医薬品、一般名にアミを掛けたものは日本のメーカーの創製品、前期比ではマイナスの製品にアミを掛けた。

表にある33製品のうち14製品がバイオとなっており、世界の上位製品ではバイオの比率が高まっている。表にはないが毎年の推移をまとめている世界の上位50製品で見ると24製品がバイオであり、バイオ24製品の売上げ合計は50製品の合計2248億ドルの55.1%となり、初めて50%を超えた。したがって医薬品売上高が100億ドルを超えるような世界的大手で大型のバイオ医薬品がないとか一部に限られるというのは、それだけでも大型低分子薬のpatent切れに対するリスクが大きくなっている。かつての世界最大の製品であるリピトールや2位製品プラビックスの急減はご存じの通りであるが、日本では昨年ジェネリックが登場したメルクの気管支喘息薬シングレア（杏林製薬のキプレス）は2011年にメルクの売上げが54.8億ドルあったが、2013年には12.0億ドルと激減し、patent切れから2年と経たずにほぼ43億ドルが消えた。メルクは免疫チェックポイント阻害剤として最初のキイトルーダを米国で2014年に発売しているが、

世界の大型医薬品売上ランキング2016 Top50

百万ドル

16順	製品名	一般名	薬効等	メーカー	2016年	前期比
1	ヒュミラ	アダリムマブ	関節リウマチ/乾癬他	アッヴィ/エーザイ	16,513	15%
2	エンブレル	エタネルセプト	関節リウマチ/乾癬他	アムジェン/ファイザー/武田	9,245	2%
3	ハーボニー	ソホスブビル+レジバシビル	慢性C型肝炎	ギリアド・サイエンズ	9,081	-34%
4	レミケード	インフリキシマブ	関節リウマチ/がん病他	J&J/メルク/田辺三菱	8,848	-1%
5	リツキシマブ	リツキシマブ	非ホジキンリンパ腫	ロシュ	8,719	1%
6	レプリミド/レブラミド	レナリドミド	多発性骨髄腫	セルジーン	6,974	20%
7	アバスチン	ベバシズマブ	転移性結腸がん	ロシュ	6,879	0%
8	ハーセプチン	トラスツズマブ	乳がん	ロシュ	6,878	4%
9	ジャヌビア/ジャヌメット	シタグリブチン	2型糖尿病/DPP4阻害	メルク/小野薬品/アルミラル	6,431	2%
10	ランタス	インスリングルアルギン	糖尿病/インスリンアナログ	サノフィ	6,317	-9%
11	アイリーア	アフリベルセプト	加齢黄斑変性	バイエル/リジェロン/参天	6,183	28%
12	ブレベナー	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌ワクチン	ファイザー	5,718	-8%
13	ザレルト/イグザレルト	リパーロキサパン	抗凝固剤/Xa阻害剤	バイエル/J&J	5,525	26%
14	リリカ	プレガバリン	神経性疼痛/てんかん	ファイザー/エーザイ	5,189	3%
15	ニューラスタ/ニューラスタ	ペグフィルグラスチム	好中球減少症G-CSF	アムジェン/協和キリン	4,790	0%
16	アドエア/セライト	サルメテロール+フルカゾール	抗喘息/COPD吸入	GSK	4,730	-15%
17	オプジーボ	ニボルマブ	抗がん剤/PD-1阻害	小野薬品/BMS	4,729	323%
18	ノボラビッド/ノボミックス	インスリンアスパルト/混合	糖尿病/インスリンアナログ	ノボ・ノルディスク	4,522	-5%
19	トリーメク/テビケイ	ドルテグラビル+EPZ0756637	抗HIV薬3剤配合	塩野義/GSK(ヴェーブ)	4,321	84%
20	コバキソン	グラチラメル	多発性硬化症	テバ製薬	4,223	5%
21	クレストール	ロスバスタチン	スタチン製剤	塩野義/アストラゼネカ	4,100	-29%
22	ソバルディ	ソフォスブビル	慢性C型肝炎	ギリアド・サイエンズ	4,001	-24%
23	テクフィデラ	ジメチル fumarate	多発性硬化症	バイオジェン	3,968	9%
24	ツルバダ	エムトリシビル+ソフィブスビル	抗HIV薬	ギリアドS/鳥居薬品	3,683	3%
25	ジレニア	フィンゴリモド	多発性硬化症	田辺三菱/ノバルティス	3,602	12%
26	シムビコート	ブテソニド/ホルモテロール	抗喘息薬	アストラゼネカ/アステラス	3,350	-10%
27	エリクセス	アピキサパン	抗凝固剤/Xa因子阻害	BMS/ファイザー	3,343	80%
28	グリベック	イマチニブ	抗がん剤	ノバルティス	3,323	-28%
29	スピリーバ	チオトロピウム	COPD/抗喘息	ベリンガー・I	3,311	-16%
30	ルセンティス	ラニズマブ	黄斑変性症	ロシュ/ノバルティス	3,261	-10%
31	ステラーラ	ウステクヌマブ	尋常性乾癬	J&J	3,232	31%
32	イクスタンジ	エンザルタミド	前立腺がん	アステラス/ファイザー	3,097	2%
33	イムブルピカ	イブルチニブ	慢性リンパ性白血病	アッヴィ/J&J	3,083	114%

研ファーマ・ブレーション 永江研太郎の調査による

© K.Nagae/KEN Pharma Brain

2016年は14.0億ドルで、このような画期的新薬でも2年で13.5億ドル増やしたただけなので、2年で43億ドルが消えるような低分子薬が1つあれば、キイトルーダほどの新製品が3つあってもカバーできない。

表にある大型医薬品33製品のうち、日本のメーカーが創製したトップは小野薬品のオプジーボとなり、前期比323%増の47.29億ドルで17位に入った。2015年に日本発の大型品のトップは塩野義製薬創製のクレストールだったが、米国でジェネリックが登場したことで21位となり、2017年は30億ドル以上の製品から消える。もう一つ急増した日本のメーカー創製品は同じく塩野義製薬の抗HIV薬のテビケイ及びその配合剤のトリーメクで、2016年は84%増の43.21億ドルとなった。テビケイはインテグラゼ阻害剤と呼ばれるクラスの2番手だが、最初のメルクのアイセントレスは1日2回製品で、これは患者が時々飲み忘れていたりすると耐性ができて効かなくなることから、1日1回としたテビケイや配合剤のトリーメクは欧米で一挙に拡大した。

先の世界の医薬品メーカーランキングで示したように、塩野義製薬はクレストールのロイヤルティの急減をテビケイ等抗HIV薬のロイヤルティでカバーして2016年は世

界で順位を1つ上げて45位となり、小野薬品工業はオブジーボの急増で22.49億ドルとなって2015年の世界68位から2016年は53位で順位を15も上げた。

また、上の表で多くの患者が利用する汎用品と言えるのは、9位の糖尿病薬ジャヌビア、13位のザレルト/イグザレルト、14位のリリカ、16位のアドエア、21位のクレストール、26位シムビコート、27位エリキウスに、29位のCOPD薬スピリーバを入れても8製品で、33製品のうちの4分の1に満たない。4分の3はそれほどMRが多く必要のない薬効であり、製薬業界で人員削減が相次いでいるのも当然と言える。R&D比率がかつての17%程度から大手の平均が21%ともなれば、販売管理費を中心にその分を減らすことになり、メーカーのマーケティングや財務構造も大きく変わる。スペシャルティ医薬品が中心となれば、専門性の高いMRが中心となり、流通に回す経費も減少することから、医薬品卸の粗利率は世界的に低下している。

2015年は医薬品業界の転換期としていたが、以上の医薬品メーカーランキングや大型医薬品売上高ランキングを見ても、2016年はすでに新しい方向へ進み始めた年と言える。

<2016年世界の医薬品メーカーランキング/大型医薬品売上高ランキングについて>

「2016年世界の医薬品メーカーランキング」「2016年世界の大型医薬品売上高ランキング」についてさらなる詳細をまとめたデータは、「新ファルマ・フューチャー」2017年6-7月号No.7に掲載しています。メーカーランキングでは世界の3億ドル以上の137社、大型医薬品ランキングでは世界で3億ドル以上の360製品を表にまとめて分析しています。なお、これらのデータはすべて公表されている売上げを元に、研ファーマ・ブレンが独自にまとめたもので、他社の調査データとは一切関係がございません。この情報誌についてのご案内は下記を参照下さい。

「新ファルマ・フューチャー」2017年6-7月号 No.7 ランキング特集特別号

(目次の詳細も掲載しています)

http://shop.risfax.co.jp/products/detail.php?product_id=426

新ファルマ・フューチャーは隔月刊誌で、割安の年間定期ご購読もあります。

トップページのwww.risfax.co.jpからもリンクされています。

<研ファーマ・ブレンについて>

研ファーマ・ブレン 代表の永江研太郎は、元(株)ユート・ブレン取締役。1996年、ユート・ブレンより海外医薬品業界情報誌を創刊。1999年3月には厚生省(当時)から委託を受けた「先進諸国の医薬品産業及び医療環境について」(全340頁)の調査報告書をまとめており、20年以上にわたって海外の医薬品産業に関する調査・執筆・講演活動を行っており、毎年「海外医薬品市場セミナー」を開催してきた。

2016年5月に「研ファーマ・ブレン」として独立し、海外医薬品情報誌「新ファルマ・フューチャー」を同6月末に創刊し、2017年6-7月号は第7号となる。新ファルマ・フューチャーを執筆・編集発行する傍ら、現在も大手製薬企業での講演や業界誌、経済誌等で執筆を行っている。

このリリースに関するお問い合わせ、引用・掲載依頼等のご連絡は直接、

kentaro.nagae@gmail.com へお願いします。